

クイックOって、何？

室内でも楽しめる新しいオリエンテーリングのスタイルです

三条 OC
藤島由宇

「クイックO」は 2009 年秋から日本で実施され始めた、新しいオリエンテーリングのスタイルです。

クイックOの定義

クイックOは今後各地で実施されるケースが増えて行く(増やしたい)ことが予想され、その定義付けを求められる段階に来ております。そこで私の考えているクイックOの定義を下記に述べておきたいと思えます。

「クイックオリエンテーリング(クイックO)とは、限られた競技エリア内で究極に単純化された地図とテレインを用いて行われる、1回あたりの走行距離と所要時間が極めて短いオリエンテーリングの方法である。クイックOの実施にあたっては、以下の要件を満たす必要がある。」

- 1 平らで硬い地面や床で行うこと。
- 2 同じ形状、大きさの物を特徴物として1種類だけ用いてテレインを設計すること。
- 3 全ての特徴物の間を競技者が通過できること。
- 4 競技者がスタート地点から全ての特徴物を目視できること。

解説

1について:平らで硬い地面や床が無い場合には地図にその様子を表記する必要があり、「地図とテレインを究極に単純化する事」に反することによる。

2について:これも「地図と現地を究極に単純化する事」に必要であることによる。

3について:例えばパイプイス等をくっつけて並べて「迷路」を作ってはならない、ということ。クイックOではルートチョイスを重視していないことによる。

4について:あまりに広いテレインを使ってしまうクイックOの意義が損われるという考えによる。

4は、「 $0m \times 0m$ 以内とする」という表現が今の所できないので曖昧にしています。

冒頭の1文についてはその表現を修正する必要もあろうかと思えますし、将来的には「室内オリエンテーリング」として大会を開くために、競技規則の制定が必要になるとも考えています。

クイックOは実施場所の広狭に関わらず同じ地図が使えるので、地図に縮尺を表記することを必須とはしていませんが、経験者向けであったり、広めのエリアで行う場合は縮尺を表記した方が参加者に親切と思われれます。

コントロールの設置方法も基本的に自由です(ただしくっけないこと)が、歩測で簡単に設置ができるので、等間隔に設置することを推奨しています。

夢の島ベイエリアSで実施

6月5日(土)に東京夢の島で開催されたベイエリアスプリントでは、初めてメインメニューとしてクイックOが採用され、参加者を募集して実施されました。

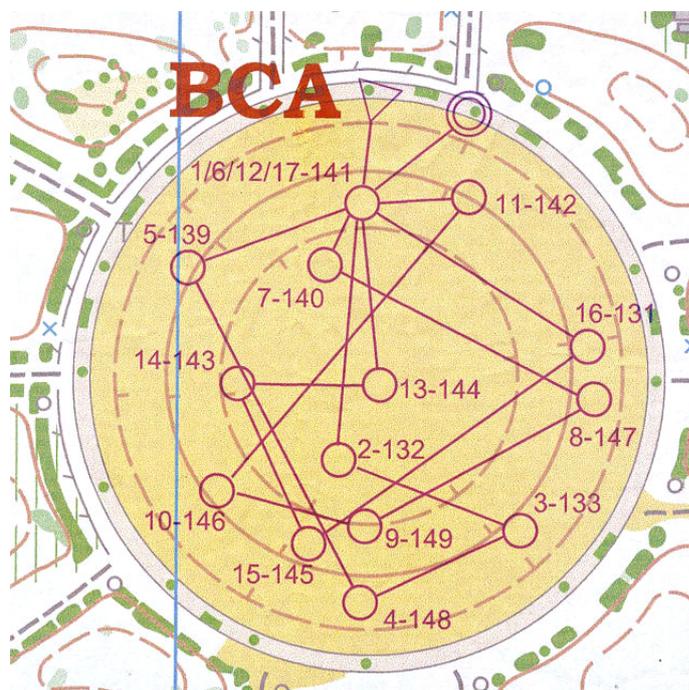
会場の夢の島には「コロシウム」という底の平らなすり鉢状の芝生広場があります。ここはクイックOの重要な特徴である「見ても楽しい」を実現するにふさわしい場所で、コロシウム内を縦横無尽に走る参加者達の様子は大変賑やかでした。参加者の評判も上々の様子で、企画・立案者の山川克則さんも「クラブカップ前日にまたやるかも」。

コントロールとコース

今回はGPSを利用して、コントロールフラッグはランダムに設置されました。またコースはループを3通り設け、その廻る順番で6パターンの地図を作製し、参加者に振り分けました。トータルでは全員が同じコースと距離を走る事になります。

今回のイベントについて、2つの点について振り返りたいと思います。

1つはコントロールをランダムに置いた点。これは先に述べました定義の「究極に単純化」に反することになっ



てしまいますので、等間隔のシンメトリ(左右対称)に設置する事が望ましいと思われました。

2つ目はレグの長さ。例えば地図(縮尺1:1,000)の「4→5」や「10→11」など7~80mの距離があると先のレグが読めてしまい、スプリント競技と変わらない内容になってしまいます。なるべく参加者に先を読ませないくらいのレグの長さ(長くて40m程度)でのコース設定が求められるということが明らかとなりました。

なおクイックOのイベントを企画いただいた山川さんにはこの場でも改めて感謝申し上げます。

このクイックOは、オリエンテーリングが初めての参加者ばかりでも競技として成立するコンテンツです。私としてはレクリエーション的な体験会としてではなく、子ども対象であっても「〇〇市小学生室内オリエンテーリング選手権大会」といった「競技会」としての実施を強く望んでいます。子ども達の目標になるイベントが、オリエンテーリングの普及にはきっと必要なのです。

クイックOに興味のございます方は藤島まで遠慮なくお問い合わせください。各地での実施報告もお待ちしております。

電話 090-4618-0177
mail yu@jo-hoku.net

(藤島由宇)